



認証、許可、アカウントティングの設定

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチに認証、許可、アカウントティング（AAA）を設定する方法を説明します。内容は次のとおりです。

- [AAA について, 1 ページ](#)
- [リモート AAA の前提条件, 6 ページ](#)
- [AAA の注意事項と制約事項, 6 ページ](#)
- [AAA の設定, 6 ページ](#)
- [ローカル AAA アカウントティング ログのモニタリングとクリア, 16 ページ](#)
- [AAA 設定の確認, 16 ページ](#)
- [AAA の設定例, 17 ページ](#)
- [デフォルトの AAA 設定, 17 ページ](#)

AAA について

AAA セキュリティ サービス

認証、許可、アカウントティング（AAA）機能では、Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチを管理するユーザの ID 確認、アクセス権付与、およびアクション追跡を実行できます。Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチでは、Remote Access Dial-In User Service（RADIUS）プロトコルまたは Terminal Access Controller Access Control device Plus（TACACS+）プロトコルをサポートしています。

スイッチは、ユーザが入力したユーザ ID とパスワードに基づいて、ローカルデータベースを使用してローカル認証/ローカル許可を実行するか、1つまたは複数の AAA サーバを使用してリモート認証/リモート許可を実行します。スイッチと AAA サーバ間の通信は、事前共有秘密キーによって保護されます。すべての AAA サーバ用または特定の AAA サーバ専用に関通秘密キーを設定できます。

AAA セキュリティは、次のサービスを実行します。

- 認証：ユーザを識別します。選択したセキュリティプロトコルに応じて、ログインとパスワードのダイアログ、チャレンジ/レスポンス、メッセージングサポート、暗号化などが行われます。
- 許可：アクセスコントロールを実行します。

Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチでの許可は、AAA サーバからダウンロードされる属性により実行されます。RADIUS や TACACS+ などのリモートセキュリティサーバは、適切なユーザで該当する権利を定義した属性値 (AV) のペアをアソシエートすることによって、ユーザに特定の権限を付与します。

- アカウンティング：課金、監査、レポートのための情報収集、ローカルでの情報のログイン、および AAA サーバへの情報の送信の方式を提供します。



(注) Cisco NX-OS ソフトウェアは、認証、許可、アカウントングをそれぞれ個別にサポートします。たとえば、アカウントングは設定せずに、認証と許可を設定したりできます。

AAA を使用する利点

AAA は、次のような利点を提供します。

- アクセス設定の柔軟性と制御性の向上
- スケーラビリティ
- 標準化された認証方式 (RADIUS、TACACS+ など)
- 複数のバックアップデバイス

リモート AAA サービス

RADIUS プロトコルおよび TACACS+ プロトコルを介して提供されるリモート AAA サービスには、ローカル AAA サービスと比べて次のような利点があります。

- ファブリック内の各スイッチのユーザパスワードリストを簡単に管理できます。
- AAA サーバはすでに企業内に幅広く導入されており、簡単に AAA サービスに使用できます。
- ファブリック内のすべてのスイッチのアカウントングログを一元管理できます。
- ファブリック内の各スイッチのユーザ属性を使用するため、スイッチ上のローカルデータベースを使用するよりも管理が簡単です。

AAA サーバグループ

認証、許可、アカウントングのためのリモート AAA サーバは、サーバグループを使用して指定できます。サーバグループとは、同じ AAA プロトコルを実装した一連のリモート AAA サーバです。サーバグループは、リモート AAA サーバが応答しなかった場合にフェールオーバーサーバを提供します。グループ内の最初のリモートサーバが応答しなかった場合、いずれかのサーバが応答を送信するまで、グループ内の次のリモートサーバで試行が行われます。サーバグループ内のすべての AAA サーバが応答しなかった場合、そのサーバグループ オプションは障害が発生しているものと見なされます。必要に応じて、複数のサーバグループを指定できます。スイッチが最初のグループ内のサーバからエラーを受信すると、次のサーバグループのサーバが試されます。

AAA サービス設定オプション

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、次のサービスごとに異なった AAA 設定を作成できます。

- User Telnet または Secure Shell (SSH) ログイン認証
- コンソール ログイン認証
- ユーザ管理セッション アカウントング

次の表に、各 AAA サービス コンフィギュレーション オプションの CLI コマンドを示します。

表 1: AAA サービス コンフィギュレーション コマンド

AAA サービス コンフィギュレーション オプション	関連コマンド
Telnet または SSH ログイン	aaa authentication login default
コンソール ログイン	aaa authentication login console
ユーザ セッション アカウントング	aaa accounting default

AAA サービスには、次の認証方式を指定できます。

- RADIUS サーバグループ : RADIUS サーバのグローバル プールを認証に使用します。
- 特定のサーバグループ : 指定した RADIUS または TACACS+ サーバグループを認証に使用します。
- ローカル : ユーザ名またはパスワードのローカル データベースを認証に使用します。
- なし : ユーザ名だけを使用します。



(注) 方式がすべて RADIUS サーバになっており、特定のサーバグループが指定されていない場合、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、設定されている RADIUS サーバのグローバル プールから、設定の順序で、RADIUS サーバを選択します。このグローバル プールのサーバは、Nexus 5000 シリーズ スイッチ上の RADIUS サーバグループ内で選択的に設定可能なサーバです。

次の表に、AAA サービスに対して設定できる AAA 認証方式を示します。

表 2: AAA サービスのための AAA 認証方式

AAA サービス	AAA の方式
コンソール ログイン認証	サーバグループ、ローカル、なし
ユーザ ログイン認証	サーバグループ、ローカル、なし
ユーザ管理セッション アカウンティング	サーバグループ、ローカル



(注) コンソール ログイン認証、ユーザ ログイン認証、およびユーザ管理セッション アカウンティングでは、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、各オプションを指定された順序で試行します。その他の設定済みオプションが失敗した場合、ローカル オプションがデフォルト方式です。

ユーザ ログインの認証および許可プロセス

ユーザ ログインの認証および許可プロセスは次のように実行されます。

- 目的の Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにログインする際、Telnet、SSH、Fabric Manager または Device Manager、コンソール ログインのいずれかのオプションを使用できます。
- サーバグループ認証方式を使用して AAA サーバグループが設定してある場合は、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチが、グループ内の最初の AAA サーバに認証要求を送信し、次のように処理されます。

その AAA サーバが応答しなかった場合、リモートのいずれかの AAA サーバが認証要求に応答するまで、試行が継続されます。

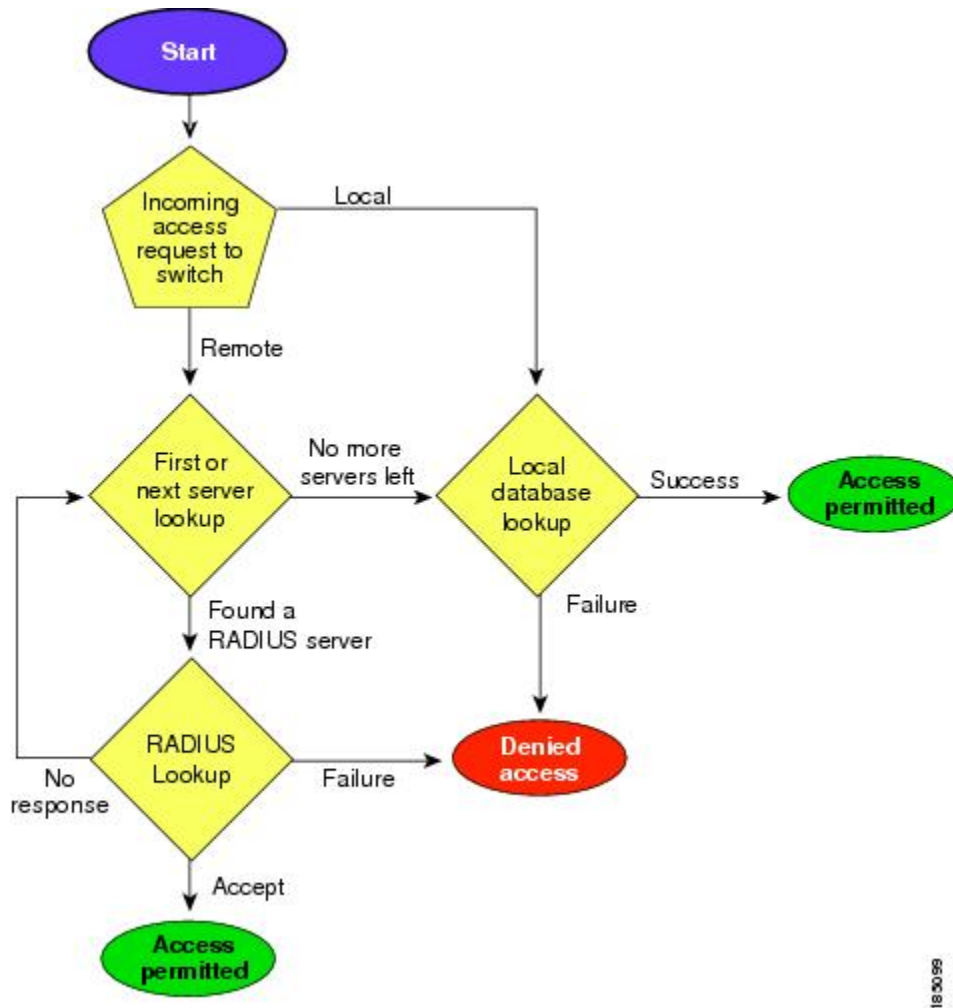
サーバグループのすべての AAA サーバが応答しなかった場合、その次のサーバグループのサーバが試行されます。

設定されている認証方式がすべて失敗した場合、ローカルデータベースを使用して認証が実行されます。

- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチがリモート AAA サーバで正常に認証を行えた場合は、次の条件が適用されます。
AAA サーバプロトコルが RADIUS の場合、cisco-av-pair 属性で指定されているユーザ ロールが認証応答とともにダウンロードされます。
AAA サーバプロトコルが TACACS+ の場合、シェルのカスタム属性として指定されているユーザ ロールを取得するために、もう 1 つの要求が同じサーバに送信されます。
- ユーザ名とパスワードがローカルで正常に認証された場合は、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにログインでき、ローカルデータベース内で設定されているロールが割り当てられます。

次の図は、認証および許可プロセスのフローチャートを示します。

図 1: ユーザログインの認証および許可のフロー



183098



(注) 「残りのサーバグループなし」とは、すべてのサーバグループのいずれのサーバからも応答がないということです。

「残りのサーバなし」とは、現在のサーバグループ内のいずれのサーバからも応答がないということです。

リモート AAA の前提条件

リモート AAA サーバには、次の前提条件があります。

- 少なくとも 1 台の RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバが IP で到達可能になっている。
- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチが AAA サーバのクライアントとして設定されている。
- 事前に共有された秘密キーが Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ上およびリモート AAA サーバ上で設定されている。
- リモート サーバが Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチからの AAA 要求に応答する。

AAA の注意事項と制約事項

そのユーザ名が TACACS+ または RADIUS で作成されたのか、ローカルで作成されたのかに関係なく、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、すべて数字のユーザ名はサポートされません。AAA サーバに数字だけのユーザ名が存在し、ログイン時にその名前を入力した場合でも、ユーザは Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにログインを許可されます。



注意 すべて数字だけのユーザ名でユーザ アカウントを作成しないでください。

AAA の設定

コンソール ログイン認証方式の設定

認証方式には、次のものがあります。

- RADIUS サーバのグローバル プール
- RADIUS サーバまたは TACACS+ サーバの名前付きサブセット
- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ上のローカル データベース
- ユーザ名だけ (**none**)

デフォルトの方式は、ローカルです。



(注) 事前に設定されている一連の RADIUS サーバには、**aaa authentication** コマンドの **group radius** 形式および **group server-name** 形式を使用します。ホストサーバを設定するには、**radius server-host** コマンドを使用します。サーバの名前付きグループを作成するには、**aaa group server radius** コマンドを使用します。

必要に応じて、コンソール ログイン認証方式を設定する前に RADIUS または TACACS+ サーバグループを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# aaa authentication login console { group group-list [none] local none }	<p>コンソールのログイン認証方式を設定します。</p> <p><i>group-list</i> 引数には、グループ名をスペースで区切ったリストを指定します。グループ名は、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • radius : RADIUS サーバのグローバルプールが認証に使用されます。 • named-group : TACACS+ サーバまたは RADIUS サーバの名前付きサブセットが認証に使用されます。 <p>local 方式では、ローカルデータベースが認証に使用されます。none 方式では、ユーザ名だけが使用されます。</p> <p>デフォルトのコンソールログイン方式は local です。この方式は、方式が一切設定されていない場合、および設定済みのどの方式でも応答が得られなかった場合に使用されます。</p>
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	switch# show aaa authentication	(任意) コンソール ログイン認証方式の設定を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、コンソールログインの認証方式を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# aaa authentication login console group radius
switch(config)# exit
switch# show aaa authentication
switch# copy running-config startup-config
```

デフォルトのログイン認証方式の設定

デフォルトの方式は、ローカルです。

必要に応じて、デフォルトのログイン認証方式を設定する前に RADIUS または TACACS+ サーバグループを設定します。デフォルトのログイン認証方式を設定する手順は、次のとおりです。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# aaa authentication login default {group group-list [none] local none}	<p>デフォルト認証方式を設定します。</p> <p><i>group-list</i> 引数には、グループ名をスペースで区切ったリストを指定します。グループ名は、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • radius : RADIUS サーバのグローバル プールが認証に使用されます。 • named-group : TACACS+ サーバまたは RADIUS サーバの名前付きサブセットが認証に使用されません。 <p>local 方式では、ローカルデータベースが認証に使用されます。none 方式では、ユーザ名だけが使用されません。</p> <p>デフォルトのログイン方式は local です。この方式は、方式が一切設定されていない場合、および設定済みのどの方式でも応答が得られなかった場合に使用されます。</p>
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	switch# show aaa authentication	(任意) デフォルトのログイン認証方式の設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

ログイン認証失敗メッセージのイネーブル化

ユーザがログインして、リモート AAA サーバが応答しなかった場合は、ローカルユーザ データベースによってログインが処理されます。ログイン失敗メッセージの表示をイネーブルにしている場合は、次のようなメッセージが表示されます。

```
Remote AAA servers unreachable; local authentication done.
Remote AAA servers unreachable; local authentication failed.
```

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# aaa authentication login error-enable	ログイン認証失敗メッセージをイネーブルにします。デフォルトはディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	switch# show aaa authentication	(任意) ログイン失敗メッセージの設定を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

AAA コマンド許可の設定

TACACS+ サーバの許可方式が設定されている場合、すべての EXEC モード コマンドおよびすべてのコンフィギュレーションモード コマンドを含む TACACS+ サーバでユーザが実行するすべてのコマンドを許可できます。

許可方式は次のとおりです。

- グループ：TACACS+ サーバ グループ
- ローカル：ローカル ロールベース許可
- なし：許可は実行されません

デフォルトの方式は、ローカルです。



(注) コンソールセッションでは許可は実行されません。

はじめる前に

AAA コマンド許可を設定する前に、TACACS+ をイネーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	aaa authorization {commands config-commands} {default} {{{group group-name} [local]}} {{group group-name} [none]}} 例： <pre>switch(config)# aaa authorization config-commands default group tac1</pre> 例： <pre>switch# aaa authorization commands default group tac1</pre>	許可パラメータを設定します。 EXEC モード コマンドの許可には、 commands キーワードを使用します。 コンフィギュレーション モード コマンドの許可には、 config-commands キーワードを使用します。 許可方式を識別するには、 group 、 local 、または none キーワードを使用します。

次に、TACACS+ サーバ グループ *tac1* で EXEC モード コマンドを許可する例を示します。

```
switch# aaa authorization commands default group tac1
```

次に、TACACS+ サーバ グループ *tac1* でコンフィギュレーション モード コマンドを許可する例を示します。

```
switch(config)# aaa authorization config-commands default group tac1
```

次に、TACACS+ サーバ グループ *tac1* でコンフィギュレーション モード コマンドを許可する例を示します。

- サーバが到達可能である場合、コマンドはサーバ応答に基づいて許可されるか、または許可されません。
- サーバ到達時にエラーが発生する場合、コマンドはユーザのローカルロールに基づいて許可されます。

```
switch(config)# aaa authorization config-commands default group tac1 local
```

次に、TACACS+ サーバグループ *tac1* でコンフィギュレーション モード コマンドを許可する例を示します。

- サーバが到達可能である場合、コマンドはサーバ応答に基づいて許可されるか、または許可されません。
- サーバ到達時にエラーが発生する場合、ローカル ロールに関係なく、コマンドを許可します。

```
switch# aaa authorization commands default group tac1 none
```

ローカル ロールに関係なく、EXEC モード コマンドを許可する例を次に示します。

```
switch# aaa authorization commands default none
```

許可にローカル ロールを使用して、EXEC モード コマンドを許可する例を次に示します。

```
switch# aaa authorization commands default local
```

MSCHAP 認証のイネーブル化

Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol (MSCHAP; マイクロソフト チャレンジ ハンドシェイク 認証 プロトコル) は、マイクロソフト 版の CHAP です。リモート 認証サーバ (RADIUS または TACACS+) を通じて、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ への ユーザ ログイン に MSCHAP を使用できます。

デフォルトでは、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ は スイッチ と リモート サーバ の間で パスワード 認証 プロトコル (PAP) 認証 を使用 します。MSCHAP が イネーブル の場合は、MSCHAP ベンダー 固有 属性 (VSA) を 認識 する ように RADIUS サーバ を 設定 する 必要 があります。

次の表に、MSCHAP に必要な RADIUS VSA を示します。

表 3: MSCHAP RADIUS VSA

ベンダー ID 番号	ベンダー タイプ番号	VSA	説明
311	11	MSCHAP-Challenge	AAA サーバから MSCHAP ユーザに送信されるチャレンジを保持します。これは、Access-Request パケットと Access-Challenge パケットの両方で使用できます。
211	11	MSCHAP-Response	チャレンジに対する応答として MSCHAP ユーザが入力した値を保持します。Access-Request パケットでしか使用されません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# aaa authentication login mschap enable	MS-CHAP 認証をイネーブルにします。デフォルトはディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	switch# show aaa authentication login mschap	(任意) MS-CHAP 設定を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

関連トピック

[VSA, \(14 ページ\)](#)

AAA アカウントティングのデフォルト方式の設定

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、アカウントティングに TACACS+ 方式と RADIUS 方式をサポートします。スイッチは、ユーザアクティビティをアカウントティングレコードの形で TACACS+ セキュリティ サーバまたは RADIUS セキュリティ サーバに報告します。各アカウントティングレコードに、アカウントティング属性値 (AV) のペアが入っており、それが AAA サーバに格納されます。

AAA アカウントティングをアクティブにすると、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、これらの属性をアカウントティングレコードとして報告します。そのアカウントティングレコードは、セキュリティ サーバ上のアカウントティング ログに格納されます。

特定のアカウントティング方式を定義するデフォルト方式のリストを作成できます。それには次の方式があります。

- RADIUS サーバグループ : RADIUS サーバのグローバルプールをアカウントティングに使用します。
- 特定のサーバグループ : 指定した RADIUS または TACACS+ サーバグループをアカウントティングに使用します。
- ローカル : ユーザ名またはパスワードのローカルデータベースをアカウントティングに使用します。



(注) サーバグループが設定されていて、そのサーバグループが応答しない場合、デフォルトではローカルデータベースが認証に使用されます。

はじめる前に

必要に応じて、AAA アカウントティングのデフォルト方式を設定する前に RADIUS または TACACS+ サーバグループを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# aaa accounting default {group group-list local}</code>	デフォルトのアカウントティング方式を設定します。スペースで区切ったリストで、1 つまたは複数のサーバグループ名を指定できます。 <i>group-list</i> 引数には、グループ名をスペースで区切ったリストを指定します。グループ名は、次のように指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • radius : RADIUS サーバのグローバル プールがアカウントングに使用されます。 • named-group : TACACS+ サーバまたは RADIUS サーバの名前付きサブセットがアカウントングに使用されます。 <p>local 方式では、アカウントングにローカル データベースが使用されます。</p> <p>デフォルトのアカウントング方式は local です。サーバグループが設定されていないとき、または設定済みのすべてのサーバグループから応答がないときに、このデフォルトの方式が使用されます。</p>
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	switch# show aaa accounting	(任意) デフォルトの AAA アカウントング方式の設定を表示します。
ステップ 5	switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

AAA サーバ VSA の使用

VSA

ベンダー固有属性 (VSA) を使用して、AAA サーバ上での Cisco Nexus 3000 シリーズのユーザ ロールおよび SNMPv3 パラメータを指定できます。

Internet Engineering Task Force (IETF; インターネット技術特別調査委員会) が、ネットワーク アクセス サーバと RADIUS サーバの間での VSA の通信のための方式を規定する標準を作成しています。IETF は、属性 26 を使用します。VSA を使用するとベンダーは、一般的な用途には適合しない独自の拡張属性をサポートできます。シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1 つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9、サポートされるオプションのベンダー タイプは 1 (名前付き cisco-av-pair) です。値は、次の形式のストリングです。

protocol : attribute seperator value *

プロトコルは、特定のタイプの許可用のシスコ属性です。必須属性の区切り文字は等号 (=) で、アスタリスク (*) は任意属性を示します。

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでの認証に RADIUS サーバを使用する場合は、許可情報などのユーザ属性を認証結果とともに返すように、RADIUS サーバに RADIUS プロトコルで指示します。この許可情報は、VSA で指定されます。

VSA の形式

次の VSA プロトコル オプションが、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでサポートされています。

- **Shell** : ユーザ プロファイル情報を提供する `access-accept` パケットで使用されます。
- **Accounting** : `accounting-request` パケットで使用されます。値にスペースが含まれている場合は、二重引用符で囲んでください。

次の属性が Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでサポートされています。

- **roles** : ユーザに割り当てるすべてのロールをリストします。値フィールドは、グループ名を空白で区切ったリストの入ったストリングです。
- **accountinginfo** : 標準の RADIUS アカウンティングプロトコルで処理される属性に加えて、追加のアカウンティング情報が格納されます。この属性が送信されるのは、スイッチ上の RADIUS クライアントからの `Account-Request` フレームの VSA 部分内だけです。この属性は、アカウンティングプロトコル関連の PDU でしか使用できません。

AAA サーバ上でのスイッチのユーザ ロールと SNMPv3 パラメータの指定

AAA サーバで VSA `cisco-av-pair` を使用して、次の形式で、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのユーザ ロール マッピングを指定できます。

```
shell:roles="roleA roleB ..."
```

`cisco-av-pair` 属性にロール オプションを指定しなかった場合のデフォルトのユーザ ロールは、`network-operator` です。



- (注) Cisco Unified Wireless Network TACACS+ 設定およびユーザ ロール変更の詳細については、『[Cisco Unified Wireless Network TACACS+ Configuration](#)』を参照してください。

次のように SNMPv3 認証とプライバシー プロトコル属性を指定することもできます。

```
shell:roles="roleA roleB..." snmpv3:auth=SHA priv=AES-128
```

SNMPv3 認証プロトコルに指定できるオプションは、SHA と MD5 です。プライバシー プロトコルに指定できるオプションは、AES-128 と DES です。`cisco-av-pair` 属性にこれらのオプションを指定しなかった場合のデフォルトの認証プロトコルは、MD5 と DES です。

詳細については、『*Cisco Nexus 3000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*』の「[Configuring User Accounts and RBAC](#)」の章を参照してください。

ローカル AAA アカウントティング ログのモニタリングとクリア

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、AAA アカウントティング アクティビティのローカル ログを保持しています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show accounting log [size] [start-time year month day hh : mm : ss]	アカウントティング ログを表示します。このコマンド出力には、デフォルトで最大 250,000 バイトのアカウントティング ログが表示されます。サイズ引数を指定すれば、コマンドの出力を制限できます。指定できる範囲は 0 ~ 250000 バイトです。ログ出力の開始時刻を指定することもできます。
ステップ 2	switch# clear accounting log	(任意) アカウントティング ログの内容をクリアします。

AAA 設定の確認

AAA の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show aaa accounting	AAA アカウントティングの設定を表示します。
ステップ 2	show aaa authentication [login {error-enable mschap}]	AAA 認証情報を表示します。
ステップ 3	show aaa authorization	AAA 許可に関する情報を表示します。
ステップ 4	show aaa groups	AAA サーバグループの設定を表示します。
ステップ 5	show running-config aaa [all]	実行コンフィギュレーションの AAA 設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<code>show startup-config aaa</code>	スタートアップ コンフィギュレーションの AAA 設定を表示します。

AAA の設定例

次に、AAA を設定する例を示します。

```
switch(config)# aaa authentication login default group radius
switch(config)# aaa authentication login console group radius
switch(config)# aaa accounting default group radius
```

デフォルトの AAA 設定

次の表に、AAA パラメータのデフォルト設定を示します。

表 4: デフォルトの AAA パラメータ

パラメータ	デフォルト
コンソール認証方式	ローカル
デフォルト認証方式	ローカル
ログイン認証失敗メッセージ	ディセーブル
MSCHAP 認証	ディセーブル
デフォルト アカウンティング方式	ローカル
アカウンティング ログの表示サイズ	250 KB

